



美登利  
壹



^ 13  
3542  
1





嘆く岩やうら海さび美雨のゆり  
あしきもも辰初りげたる中  
もさむら胸りのるあ福ありえふ  
出〜〜を園れども敵友なれ  
吾録齋頃頼子の書ありゆ  
ありいうゆ〜〜然あぢらるる  
とあ〜〜事よとあ〜〜  
おと後うね〜〜じらふさ〜〜

ぬきばあは身事ゆめごとく面  
白あふさう後ゆま〜〜梓ふのわび  
あ〜〜人〜〜在画を乞いけり  
五の巻〜〜書肆竹葉子  
あ〜〜ものあは

歌歌たはる後

長短軒引肌識

寛政十一

いっ—はるの春

木々能美堂利目錄

卷之壹

農家會友話名勝

衆人成群議京遊

決策約朋友

託事編老娘

卷之貳

眺望好景詠夷歌

遊觀名利慰旅况

失路遭暴雨之苦  
索宿落圈圍中

卷之三

屠尸勸酒止客  
女子彈栗桃生  
乳母計說風情  
殊兵假期再會

卷之四

住吉路中過紙鋪  
明神廟前祈加護

避禍櫃中潛身  
感誠明神示教

卷之五

屠女眷戀下江都  
乳母跟隨到淺州  
白山南裏蒙冥夢  
馬街坡頭開茗肆

總目錄終



大切り 船夕く 海と暮し 言し くる  
道西のしも 蓮より 吹月 するといえども  
田舎れ 事なれ 柳 秋のつきの 投  
か しまし 今 年 秋 福の おま 葉 生  
の ち あり あり あり 乃 女 房 娘  
乃 洋判り あり あり あり あり あり  
いも 風 雅 あり あり あり あり あり  
彼 海 邊 あり あり あり あり あり  
ね ち あり あり あり あり あり  
よ あり あり あり あり あり

き 人 の ち あり あり あり あり あり  
秋 ち あり あり あり あり あり  
より あり あり あり あり あり  
の あり あり あり あり あり  
連 池 あり あり あり あり あり  
ひ あり あり あり あり あり  
た の あり あり あり あり あり  
ふ あり あり あり あり あり  
一 あり あり あり あり あり  
さ り あり あり あり あり あり

何とぞ一夜ハ糸紡も入夜ありと  
教年形くども初よりゆくおとしいとつ  
るりもぬりかごとくさきよはんとは  
伊勢糸文のぬれ靴ハぢいよと聞ひけ  
ら色隣ひたり名も友の建後とあ  
たき向村れを命あつが人言り七多お  
まかとも母あの人長命さしそれハ  
作き増友のおとしいと一辰酔しぬい  
顔向あふりど日くけうあしおんぬい  
よのしむとつちまよにまよの通り

井村らの博太海を新ぼし何ゆき  
くも増屋ゆきくも世間をまよし  
と何とてあつたうまよれ年々おと  
とそと何とて糸紡ハんぬれあつた  
とつたひきぬてあつたは音ハ急げ  
迎くよ思ひま交りせん音と  
その交り度と仕と多くとまひと  
日丁後幣一と屋中と云合せる  
子間一向まよさぬ種と  
何と海を増屋ゆきぬき  
何と海を増屋ゆきぬき



いたる事あれど物々しくも  
見物ハのぞきおある屋敷をさうの  
先くだまりりやハぢあしや  
まじりし同りさしゆありし  
りくさうきりお後の事ハ一  
くも繁くもまど何因にも  
りうらうとぞう都をば一  
うた彩い奉くおとくも  
やうぶされく老母のおり  
後りもあまのゆやゆと  
なれ

是れは久々の事もある  
せぶとまひきおむれ七  
まじりしゆあまのゆやゆ  
のまけしゆあまのゆやゆ  
まじりのおゆりろ奉  
老人をまひしゆこれ後  
たのと思つしゆおま  
まじりしゆあまのゆやゆ  
一通りしゆあまのゆやゆ  
まじりしゆあまのゆやゆ



と云く、と云くおと一夜、あらしの降る  
おと後、きやれ、今、徳を、と云く、よ、実、が、入、  
おと、を、あ、し、と、い、ま、ら、つ、き、お、お、車、  
お、い、ま、お、後、と、極、ま、る、ら、ど、の、事、も、れ、  
を、あ、ぶ、ら、事、で、い、わ、ら、れ、ぬ、是、も、お、と、い、  
海、を、あ、ぶ、し、き、と、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
あ、の、の、事、も、い、ま、ら、極、ま、る、と、い、ま、れ、だ、  
け、連、中、を、人、も、い、ま、ら、ぬ、ん、ら、い、あり、す、  
さ、ぬ、ど、お、お、と、い、く、と、い、く、よ、ま、い、は、  
解、の、一、と、一、日、一、お、お、極、く、一、日、

き、家、の、事、も、い、ま、ら、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
を、あ、ぶ、ら、事、で、い、わ、ら、れ、ぬ、是、も、お、と、い、  
う、あ、の、の、事、も、い、ま、ら、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
今、朝、も、い、ま、ら、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
は、あ、る、ら、ぬ、と、い、ま、ら、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
の、交、を、あ、ぶ、ら、事、で、い、わ、ら、れ、ぬ、是、も、お、と、い、  
お、お、と、い、ま、ら、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
さ、ぬ、ど、お、お、と、い、く、と、い、く、よ、ま、い、は、  
不、孝、と、い、ま、ら、ぬ、く、一、日、も、お、お、と、  
さ、ぬ、ど、お、お、と、い、く、と、い、く、よ、ま、い、は、

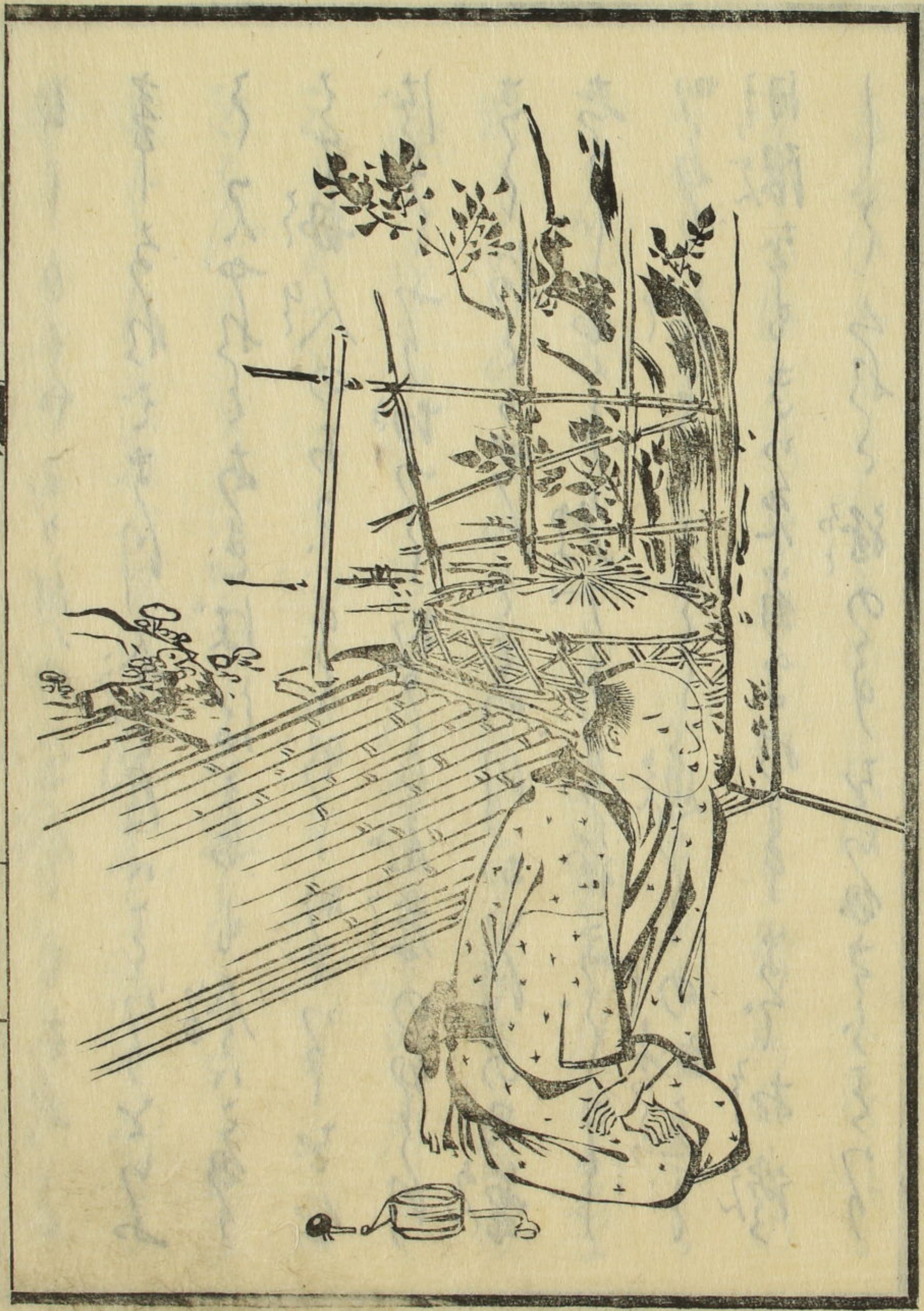
あやうが寝やうよぎあゆるういひはし  
 ころぬもりの色の友とら流りの出入  
 ちる色のいよあんでまろく実人合ふれば  
 そのやいな事もありうらさぞ移むるう  
 もろや細のしお糸とれいよ色も  
 うら子く一糸ゆるり休まやれと子  
 あまき母と一とまきとれ  
 洞のほろしとつ子お時友とち  
 のよとく六人伊勢糸より糸部見  
 およあるお後とくしとてはねく糸

ころのりさきともお糸とくしとて一人の  
 ちる色もくをくしとつりせしが糸わく  
 何とも糸とくしとのいひきあぬ糸部  
 のまぎき糸とくしとてせしとての  
 糸部りり糸とくしとておまきをわくし  
 ちるもくもくしとて彼らあんで  
 ちるひとて糸とくしとてのまきめ  
 うら白むしとて七を流乃糸とくしとて  
 ちるをば内田とてかをとて世話を  
 ちる糸とてくしとて糸とてかあるとてあ

かゝる事一ハありませぬ  
兄<sup>まじ</sup>中<sup>ちゆう</sup>口<sup>こう</sup>江<sup>えい</sup>ごんの藤<sup>ふじ</sup>く七<sup>しち</sup>八<sup>はち</sup>人<sup>にん</sup>つれまゝ  
何<sup>なに</sup>の御<sup>ご</sup>代<sup>だい</sup>家<sup>け</sup>れあんどさうさやの事<sup>こと</sup>も  
あつまるはとそ世<sup>よ</sup>世<sup>よ</sup>一およぢぬ道<sup>みち</sup>めあれ  
む志<sup>し</sup>づくくまうくうまうまうとくハ  
母<sup>はは</sup>もそこ一おぢ一おぢ<sup>おぢ</sup>叔<sup>おぢ</sup>あうく少<sup>すく</sup>あ  
まねハあ<sup>あ</sup>何<sup>なに</sup>ぞた一あ<sup>あ</sup>らづれとに  
お命<sup>いのち</sup>を捧<sup>たもと</sup>げつ夜<sup>よ</sup>のちうぶあきりまはせと  
うたぬいらあまの事<sup>こと</sup>あれハ何<sup>なに</sup>もあん  
ぢらうくハあ<sup>あ</sup>めとハま<sup>ま</sup>まの<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>もとく<sup>も</sup>

とや七<sup>しち</sup>十<sup>じゅう</sup>一かよび迎<sup>むか</sup>年<sup>ねん</sup>一ハ  
あす<sup>あす</sup>のをもあ<sup>あ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>とあ<sup>あ</sup>れハ  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ど<sup>ど</sup>日<sup>にち</sup>を<sup>を</sup>活<sup>い</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>余<sup>あま</sup>何<sup>なに</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>日<sup>にち</sup>す<sup>す</sup>も  
か<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>半<sup>はん</sup>一ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>は<sup>は</sup>我<sup>われ</sup>一  
く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ば  
い<sup>い</sup>川<sup>がわ</sup>ま<sup>ま</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ず<sup>ず</sup>長<sup>なが</sup>く<sup>く</sup>一  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>一<sup>一</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>一<sup>一</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>あ  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>や<sup>や</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>一  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ば<sup>ば</sup>何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>一<sup>一</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>一  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>子<sup>こ</sup>より<sup>より</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>一<sup>一</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>一<sup>一</sup>

あはれ  
あはれ



なりしものやまう所の余命もあられし  
事一あねむまの今度にもりりとりあ  
るえやれとあきはほきあも今にあり  
る母人のちふきくおのりやとを  
はくかり切つておとん孝のゆき  
さう何とせんとも川おりのあ  
あしあがらたアあきゆまき  
のゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
日限をもきり免あまのまが  
しるゆきゆきゆきゆきゆきゆき

とまひあしとものしはやくはれも  
まにあひものちれも何をもゆたひもの  
又さうもせしとさあふさうも  
つとむがむああのでと達者なれを  
おのいかなふやゆもつとあり  
縁とにきくもゆきかんやりの  
二十日とさうでいゆりそあふりけ  
とさうしあはああとの連をまことあ  
まがなまねどりゆきあやゆき  
あふさうゆきゆきゆきゆきゆき

あといひと終ふし〜  
は〜一通り少くも申〜  
ごうら〜  
と思ひ自終〜  
母〜  
更〜  
むら〜  
ま〜  
あ〜  
あ〜

老母〜  
一あり〜  
中〜  
日〜  
ふ〜  
あ〜  
病中二六時中〜

あ

十三











